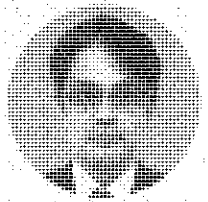


高知新聞

09 人権啓発シリーズ



たけむら としみち氏 1964年高知市生まれ。駒沢大学文学部社会学科(社会福祉専攻)卒。医療法人近森会(医療ソーシャルワーカー)を経て高知市社会福祉協議会(市障害者福祉センター・ソーシャルワーカー)。2003年特定非営利活動法人「ワークスみらい高知」設立。05年から同法人理事長。障害のある人の社会活動支援として高知市で就労支援事業「m's kitchen」(百石町)など6店舗を運営。

障害者の人権について
の執筆依頼に、あえて権
利ではなく義務について
思いを伝えることをお許
しいただきたい。

これまで、もう20年以
上障害のある人にかかわ
る仕事に就いている。そ
んな以前から今日に至る
まで、「社会参加」は相
変わらずのテーマだ。

人はこの世に生まれ出
たその時から社会に参加
を始める。障害のある人
の場合、古くは神話の時
代から長くその生存すら
認められず、さまざまに
差別的扱いにあったこと
はまぎれもない事実だ。
差別でなくとも障害のあ
る人がキャンプをしただ
とか、運動会を行ったな
ど人として普通の行為が
報道されることに對して
すら違和感を抱いてい
た。

少しずつそうしたこと
がニュースにならなくな
り始めた2002年、高
知で全国障害者スポーツ
大会(よさこいピック)
が開催された。全国各地
から数千人の障害者が競
技場はもとより街中に繰

竹村 利道

り出した。街の人々は奇
ら希薄だった障害のある
異な視線を向けることも
なく、自然なやりとりが
至る所で発生した。もは
や存在するという社会参
加は果たされ、生きる権
利を疑うものはいないと
実感した。その光景をう
れしく眺めながら、新た
な違和感がわき出してい
た。「参加」だけいいい
う。障害ゆえ、義務を果

り出した。街の人々は奇
ら希薄だった障害のある
異な視線を向けることも
なく、自然なやりとりが
至る所で発生した。もは
や存在するという社会参
加は果たされ、生きる権
利を疑うものはいないと
実感した。その光景をう
れしく眺めながら、新た
な違和感がわき出してい
た。「参加」だけいいい
う。障害ゆえ、義務を果
たすことが求められる。高
知市内に6カ所ある店
舗のいずれにも、お客
さんがとつてうれしい特
別があっても奇異な特殊
な存在しない。量販店
の商品が商品価値が選
のすべてであるはずだ。
特殊な例かもしれない
となる。やらずに終わ
り。高知には理解が
あつて」という感想が
多。高知が特別に
な。高知には理解が
あつて」という感想が
多。高知が特別に

義務実現へチエンジ

のか? 存在するだけで
いいのか? 「活動」し
なければならぬのでは
ないかと。
声高に、「生きる「権利」
の保障を叫び「参加」を
求める。当法人では、こ
うした食べ物を運んで
くる者が障害を持って
いることに気が付いて
も、そのことを中心に
障害者団体、施設から
見学者が絶えず現れ
る。高知には理解が
あつて」という感想が
多。高知が特別に

の保障を叫び「参加」を
求める。当法人では、こ
うした食べ物を運んで
くる者が障害を持って
いることに気が付いて
も、そのことを中心に
障害者団体、施設から
見学者が絶えず現れ
る。高知には理解が
あつて」という感想が
多。高知が特別に

障害者の人権(中)

強い間、権利の実感す
ました」という悲しい
せよもつらく悲しいこ
とを伝えるだけだ。二
さんです。
◆次回は高知市身体障
害者連合会会長、中屋圭
一